

## 国語

## 第1問 問6

## 複数のテキストを踏まえた設問

## 出題の特徴

第1問はル・コルビュジェの建築物についての2つの文章が出題されました。問6では2つの文章について生徒が話し合っている場面設定で、【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の内容把握が問われました。各選択肢で【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】それぞれの内容に触れており、各文章の内容を的確にとらえて解答することが求められました。

## 指導のご提案

複数のテキストを用いた出題は今後も続くことが見込まれます。出題内容としてはそれぞれの文章の内容把握や共通点の把握など、さまざまな出題が考えられますが、限られた時間の中で解答できるように、それぞれの文章の趣旨をすばやくとらえることが大切です。

## 2023年度大学入学共通テスト「国語」

受験者数: 445,205人  
 平均点: 105.74点  
 標準偏差: 34.10

教材のご紹介

問6 次を示すのは、授業で「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだ後の、話し合いの様子である。これを読んで、後の(1)～(4)の問いに答えよ。

生徒A ― 「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」は、両方ともル・コルビュジェの建築における窓について論じられていたね。  
 生徒B ― 「文章Ⅰ」にも「文章Ⅱ」にも同じル・コルビュジェからの引用文があったけれど、少し違っていたよ。  
 生徒C ― よく読み比べると、  
 X  
 生徒B ― そうか、同じ文脈でもどのように引用するかによって随分印象が変わるんだね。  
 生徒C ― 「文章Ⅰ」は正岡子規の部屋にあったガラス障子をふまえて、ル・コルビュジェの話題に移っていた。  
 生徒B ― なげわざわざ子規のことを取り上げたのかな。  
 生徒A ― それは、  
 Y  
 生徒B ― なるほど。でも、子規の話題は「文章Ⅱ」の内容ともつながるような気がしたんだけど。  
 生徒C ― そうだね。「文章Ⅱ」と関連づけて「文章Ⅰ」を読むと、  
 Z  
 生徒A ― こうして二つの文章を読み比べながら話し合っていると、いろいろな気づきがあるね。

(1) 空欄 X に入る発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 「文章Ⅰ」の引用文は、壁による閉塞とそこから開放される視界についての内容だけど、「文章Ⅱ」の引用文では、壁の圧迫感について記された部分が省略されて、三方を囲んで形成される壁の話に接続されている。
- ② 「文章Ⅰ」の引用文は、視界を遮る壁とその壁に設けられた窓の機能についての内容だけど、「文章Ⅱ」の引用文では、壁の機能が中心に述べられていて、その壁によってどの方向を遮るかが重要視されている。
- ③ 「文章Ⅰ」の引用文は、壁の外に広がる圧倒的な景色とそれを限定する窓の役割についての内容だけど、「文章Ⅱ」の引用文では、主に外部を遮る壁の機能について説明されていて、窓の機能には触れられていない。
- ④ 「文章Ⅰ」の引用文は、周囲を囲う壁とそこに開けられた窓の効果についての内容だけど、「文章Ⅱ」の引用文では、壁に窓を設けることの意味が省略されて、視界を遮って壁で囲う効果が強調されている。



教材のご紹介…「2024共通テスト対策【実力養成】重要問題演習 現代文」

複数のテキストを踏まえた設問

解答解説

4大澤真幸【文章Ⅰ】『社会は絶えず夢を見ている』  
【文章Ⅱ】『不可能なことだけが危機をこえる』

問6 【要旨の把握(情報の統合)】

次に示すのは、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだ後に三人の生徒がパンデミック(感染症の世界的な流行)について話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから1つ選べ。

こう解く! 設問の会話文をよく読み、本文中の対応箇所を確認する。

手順 空欄直前の生徒Bの発言から、「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」はともに倫理観にふれていることがわかる。それぞれの文章でどのような倫理観について説明されているかを確認する。

まず「文章Ⅰ」では、「リスク社会では、古代ギリシア以来の倫理の基本が否定されてしまう——このことが重要だ。アリストテレスが述べたことは、美德は中庸の内にある、ということでした」と、「中庸」の倫理観について説明されている。この「中庸」の倫理観は、問4にもあるように「民主主義的な決定の基盤」にもつながる、合理性を重んじる倫理観だと言える。できる限り多くの人の利益に資する政策を決定していこうという考えかたが、感染症が拡大する状況の中では機能しなくなるのである。一方、「文章Ⅱ」では、「人間の倫理のベースであり、人間が本能的に持っていると考えられる、弱者をこそ救済したいと感じる倫理観について説明されている。」

▼以上二点から、⑤が正解。

▼本文確認でチェック!

選択肢を確認!

- ① けれど、「文章Ⅰ」では古代ギリシア以来引き継がれてきた伝統ある倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」は人間が本能的に持っている倫理観について説明している。  
X「文章Ⅱ」は近年生じているさまざまな環境問題に対処するために必要な新しい倫理観について説明されていると思うんだ。
- ② でも、「文章Ⅰ」では利害関係を調整するために中間をとるといふ現実に対応した倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」では困難な状況であっても最善を尽くすべきだといふ理想に基づいた倫理観について説明されていると思うんだ。  
X「現実理想」という対比はない。
- ③ 「文章Ⅰ」は古代ギリシア時代から続く中庸の倫理観について、「文章Ⅱ」は別物とは違う人間特有の倫理観について説明されているけれど、X「本文にない」。
- ④ 「文章Ⅰ」では社会的な合意形成をうながす全体に関わる倫理観、「文章Ⅱ」では前掲しているときは助け合っている個人々々に示された倫理観が示されているけれど、この二つの倫理観は結局少数者を切り捨てることにはならないと思うんだ。  
X「少数者も文章Ⅱで示されている。国家政治の倫理は、少数者を切り捨てることにはならない。」
- ⑤ ただ、「文章Ⅰ」では多数派の意見を聞いたりうやむやに取捨するという合理性に基づいた倫理観について述べられているのに対して、「文章Ⅱ」では人や仲間を大切にするといい人間が本音で持っている倫理観について説明されていると思うんだ。

問6 次に示すのは、「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」を読んだ後に、三人の生徒がパンデミック(感染症の世界的な流行)について話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから1つ選べ。

10 (9)点

生徒A—SARSやMERS、新型コロナウイルスと感染症の脅威が他人事でなくなつて、僕たちもこうした問題に真摯に向き合わなければならぬ。

生徒B—私も、そう思う。今までは、パンデミックは「世紀に一度起きるかどうか」という認識だったけれど、そうでもない状況が続いているね。

生徒A—一度パンデミックが起きてしまうと、経済をストップさせたり、感染地域を閉鎖したり、政治的な対応が迫られることになるよね。さらに、「文章Ⅱ」にもあったように医療現場が逼迫した状況に陥ってしまう。

生徒B—そのような状況で人間の倫理観が切り崩されていくとするとそれは本当に恐ろしいよ。「文章Ⅰ」も「文章Ⅱ」も倫理の問題についてふれているよね。

生徒C—たしかに。

生徒B—なるほどね。パンデミックの危機は、人間がどのように関係を構築し、社会を動かしているかという根本的な問題を見直すことにつながるね。

解答の根拠がわかる解答解説で解き方と手順を習得し、3年生2学期からの本格的な実戦演習へ

「2024共通テスト対策【実力完成】直前演習 国語」(2023年6月発行)